

青桐会会員の皆様

大東文化大学青桐会埼玉県支部

平成 26 年度就職懇談会報告書

大東文化大学青桐会

寒気の候、皆様におかれましては益々ご健勝の事とお慶び申し上げます。

去る 11 月 9 日、青桐会埼玉県支部では「さいたま共済会館」において、平成 26 年度就職懇談会を開催いたしました。当日は雨模様にもかかわらず、県内各地から多くの保護者、学生の皆様にご参加をいただき、来賓、役員を含め 180 人の懇談会となりました。

開催にあたり主催者を代表して、埼玉県支部高橋支部長より「アベノミクスの効果により就職状況は改善され売り手市場と言われていますが、実際は苦戦をしている学生も多い。親と子の関わりの中で、どのように就職活動を進めて行けばよいか。そんな不安や疑問を解消するために本日の就職懇談会を開催いたしました。皆様にとってお役に立てるものであればと願っております。」との挨拶のあと、青桐会佐々木会長、来賓の大東文化大学太田学長からご挨拶をいただきました。懇談会では就職活動を間近に控えた 3 年生から熱心な質問があり、就職活動に対しての真剣さが伺えました。

今回、「青桐会埼玉県支部就職懇談会」にお招きし講演をいただいた方の講演内容や、内定を勝ち取った学生の皆さんによるパネルディスカッションの内容をまとめたものを、全国の会員の皆様にお届けさせていただきます。学長より「学生の就職希望の 100%を目指して頑張ってください」とのお言葉がありましたが、皆様も現在の就職状況をご理解の上、学生への支援をよろしくお願い申し上げます。青桐会では就職に関する情報等を引き続き発信していく所存でございますので、当会へのご理解、ご協力を併せてお願い申し上げます。



第一部 就職に関する講演

「新卒採用の現状～企業が求める学生とは」

講師 株式会社 アイデム 五畠 真紀子 様



私は、2011年に本学の法学部法律学科を卒業しました。社会人4年目です。現在 株式会社アイデムという会社に勤務しております。社会人になってからのほとんどの期間を、企業の新卒採用のお手伝いという形で、採用コンサルティングや新入社員研修などをやらせていただいています。企業と二人三脚で学生の内定をサポートするという仕事をしております。本日は、企業から見た視点で新卒採用に関してのお話をさせていただきたいと思います。

大きく変わる就職時期

2016年卒採用から採用スケジュールが大きく変わります。

私が就職活動をしていた2011年卒の場合は、エントリー開始が3年生の10月からで、選考は12月からスタートでした。今の2015年卒の場合より早い段階でスタートしていました。しかし、2016年卒は来年3月から採用広報が開始になり、選考は8月から始まります。時期が遅くなることで、企業の間では採用難の時代と言われています。学生にとっては売り手市場なので、企業側としては人材確保に苦慮しています。しかし売り手市場だと言って安心は禁物です。まだまだ学歴で採用がされたり、全ての学生が内定をとれるという状況ではありません。

本日は、特に3年生に関して今から準備していただきたいことをお伝えできればと思います。2016年卒は来年3月から採用がスタートになりますので、短期決戦型の就職活動のスケジュールになってきます。採用選考がスタートしてからうまくいかなかった場合、軌道修正がとても難しくなってきます。内定をもらえないまま卒業してしまうという可能性が出てきます。現3年生の全体の六割の方が何らかの就職活動をスタートしています。企業に関しても11月からの採用選考をしているところも多いです。

実際どんなことをしているか

今、学生は「働くという事は何なんだろう？」という意味を考えている状況だと思います。自分の持っているスキルが社会のフィールドで戦えるのか？今持っているスキルは、自分のコミュニテ

ィーの中では通用するかもしれませんが、他大学の学生の中ではそれほど高いレベルではないかもしれません。現状に気付き、自分のスキルがどれ位社会に通用するか、もう一回自分を見つめ直すことがとても重要になってきます。そのためにもインターンシップなどはとてもいい機会です。大東の学生だけでなく他大学の学生がたくさんいる中で、自分に何が足りないかを気付ける良い機会です。是非参加し、自分のスキルがどの程度なのか判断して頂きたいと思います。

企業が見ているポイント

学生はたくさんの経験をしてきた中で、経験を通してどう成長してきたか、どういうことを得られたのか、どう社会人として役に立っているか、その力をうちの会社でどう活かせるのかを一番重要視しています。企業にとっては、売り手市場なので採用難の時代ですが、即戦力になる人材を求めています。

行動力、協調性、思考力、自分で現状を分析して考え抜く力。課題解決に向けてのプロセスを明らかにしてしっかり準備しているかを一番見ています。これを面接の場やエントリーシートでチェックしている企業は多いです。最近はおとなしい学生が多く、説明会でも質問をしなかったり、話をしても相槌をしなかったり、どうしてもうちの会社に入りたいという気持ちが伝わらない学生が多いと企業は言っています。

採用人数は増えているのか

企業の採用数は増えてはいます。しかしそれは、中堅中小企業と言われる 100 名以下の企業です。大手企業に関しては、例年 5 名程度で大学名を指定されるケースがあります。一部の企業では、倫理規定はありますが、2016 年卒採用に関しては既に 1 1 月から第 1 回目の会社説明会が行われています。

質疑応答

質問：大東文化 3 年生 環境創造学部環境創造学科

インターンシップ、OB、OG 訪問というのが自分の質を知るうえでとても重要だと先程お話を頂きましたが、インターンシップ、OB、OG 訪問以外に社会人の方と触れ合うとか、お話ができる機会は、他にこういったものがあるのでしょうか？

回答：ナビサイトを扱っている会社のイベント等に参加するとか、行きたい企業が決まっているのならその会社の近くで、そこの社員の方に話を聞くというのもいいと思います。私も実際にやったことがあります。その会社は落ちてしまいましたが、熱意は伝わったと言われました。他の人がやらない飛びぬけたことをするのも手だと思います。

大学から就職活動の状況説明

東松山キャリア支援課
課長 酒井 敏雅 様

昨今の就職の状況はだいぶ好転してきたと思います。昨年と比べても非常に良くなってきました。マスコミをはじめ情報がいっていると思いますが、大手企業を中心に業績が回復して、今年に入り各企業の採用枠が拡大され、売り手市場となった事で学生の就職活動が非常に有利になってきました。

リクルートワークスという会社が毎年新卒の有効求人倍率を発表しています。昨年度は1.28倍、今年度は1.61倍となっております。就職希望者100人に対して161人の求人があると言う事ですから、贅沢を言わなければ、全員の方が就職できる数字であります。しかし一生を決める就職先になりますので、自分の条件にあったところを希望(志望)していくことになります。最近では大手企業の希望者が増えつつあります。



1. 就職活動の状況

(1) 4年生

昨年を上回る感触。本学で言えば現時点で70%強決まっている。

まだ決まっていない学生に対して、大手の採用は終わってしまっているが、中堅中小の優良企業も残っている。これから面談、学内での合同説明会、求人の紹介などで一人一人決めていきたい。

(2) 3年生

2極化。就職活動が進んでいる学生は早めに動いている。一方ではのんびりムードで4年生の状況を見ながら動き出そうという学生もいる。

(3) 2年生 準備段階ではあるが目的意識を持った学生は早めに準備している。

2. 今後について

- ・まだ決まっていない4年生へのサポート
- ・3年生は3月に企業をお迎えして、学内就職セミナーを3日間続けて板橋キャンパスで行う予定。
- ・就職支援行事として板橋キャンパスでは3, 4年生を中心に2月まで6回のガイダンス、東松山キャンパスでは7回のガイダンスを予定している。

3. 2016年卒採用日程繰り下げ

(1) 変更点の確認 後ろ倒し(現4年は12月1日から)

- 現3年生から 3月広報活動開始。 4年生の8月から採用試験開始 10月1日内定
- (2) 影響 就職活動の期間が短縮 企業を絞っていかなければならない。
 - (3) 対策 企業の動きをよく見る。
 - (4) 今後の注目点 業界説明会も前倒しで行う企業もあり、夏休み前までに決めるのが理想

4. インターンシップ

- (1) 就業体験をすることで業務の理解を深める。
- (2) 時期 夏休み 期間 5日間～10日間、1週間～2週間が主流であるが1DAY2DAYという短期間のインターンシップもあります。
- (3) 自由応募と選考・一部大東枠
リクナビ・マイナビ・HPなどから応募 金融関係で一部大東枠(5名)あります。
- (4) インターンシップは志望先を考える上で勉強になる。ひとつのきっかけとして、そこから企業研究や業界研究をして、自分に合った別な方向を見つけ出す事も大事。

5. ブラック企業について

- (1) 定義 低賃金・サービス残業、人材の使い捨て、経費は自腹、パワハラなど
- (2) 見分け方
 - ①求人票から 給与、待遇面などをチェック(給料が高すぎる、逆に低すぎる)
 - ②説明会・採用試験から 説明会からいきなり選考が始まってしまう。簡単に選考を終了してしまう。会社の規模に対して募集人員が多い。
 - ③内定後の企業訪問から(特に重要) 求人票に書いてなかった事等(聞きずらかった事)を内定後企業訪問して納得するまで確認する。
 - ④キャリアセンターでも情報をもっているの、情報を提供している。

6. その他

- (1) キャリアデザインやWスクールについて
1年生から受講できる。現在10科目ある。来年度2コマ増やす予定にしている。
- (2) 最近の学生の弱点
おとなしい学生が多く打たれ弱い。切り替えがむずかしい。しかしどれだけ早く切り替えられるか、持ち直す力があるかが決め手になる。そのような学生を企業は求めている。
- (3) 父母の役割
普通の生活・習慣が大事
履歴書・エントリーシート(添削、見ていただけるとよいと思う)
先行投資(交通費など)
- (4) 就職戦線に勝つためには
 - ・ひとつひとつをこなしていく。
 - ・自己分析、業界研究を柱として、自分の将来をしっかりと見つめていく。
 - ・キャリアセンターを利用する。

第二部 パネルディスカッション

パネリスト 株式会社 アイデム

五嶋 真紀子 様

スポーツ・健康科学部 スポーツ科学科 4 年

小島 彩斗美 さん

国際関係学部 国際文化学科 4 年

長友 理希 さん

外国語学部 英語学科 4 年

安藤 純平 さん

コーディネーター

大東文化大学 東松山キャリア支援課課長

酒井 敏雅 様



【1】就職活動のスタートから内定まで

酒井課長：まず初めに本格的に就職活動を始めた時期、内定を貰った時期、そして就職活動を終了した時期についてお話しください。

小島さん：5月から公務員試験を受け8月に内定をいただきました。第一志望の消防官の試験の結果は11月となっております。

長友さん：12月の合同企業説明会からスタートし、初めの内定は2月です。志望先企業からは3月の中旬でしたので、そこで就職活動を終えました。

安藤さん：私が始めたのは12月で最初の内定が4月の下旬でした。しかし、自分の条件に合った会社を探し、7月の中旬に内定をいただき就職活動を終了しました。

酒井課長：エントリー数、説明会参加数、応募数、内定社数についてお願いします。

安藤さん：エントリー数は100社以上。説明会はほぼ毎日で60か70社位。応募は50社位で、内定数は3社です。

長友さん：エントリー数は約100社、説明会に参加したのは15社位です。応募したのは8社程度です。最終的に内定社数は2社です。

小島さん：エントリー数は15社程度です。説明会に行ったのは5社、受験したのが4社、内定をいただいたのは1社です。

酒井課長：応募に必要なエントリーシートと面接で聞かれた事をお願いします。

小島さん：志望動機と自己PRはどの企業でも聞かれました。次に多かったのは今まで生きてきた中で辛かったことをどう乗り越え何を学んだかということです。

長友さん：大体は小島さんと同じです。今まで一番辛かったことは何か、そこからどう乗り越えてどう自分が成長したか等難しい質問もありました。

安藤さん：それ以外では長所と短所を聞かれました。長所は自己PR等で補えますが、短所は社会人になったらどう改善していくか等を交えながら答えました。

酒井課長：それでは次に活動費用について伺います。

長友さん：スーツ等を含めて 5 万円以内です。

安藤さん：スーツを除き交通費として月に 3～4 万円位と食事代でした。その費用はアルバイト代で全額支払いました。

小島さん：民間企業に関しては約 3 万円位だと思います。公務員に関しては学内講座代と板橋校舎までの定期代、食事代等でトータル 10 万円弱位かなと思います。

五 嶌 氏：埼玉からは交通費だけで月 3～4 万円必要です。スーツと一番大事なのは靴です。月に一足履きつぶすとトータルで 10 万円とか十数万円位かかります。

【2】大学時代に取り組んだ事

酒井課長：大学時代に取り組んだことについて教えてください。

小島さん：やっていたことは部活動とアルバイトです。自分が何を学んでいるか、何をしてきたかということをしっかり覚えておくと思いいます。

長友さん：就活に向けてはインターンシップに参加しました。また大学でも社会人野球チームに参加し西武ドームでボールボーイのアルバイトをしていました。

安藤さん：僕はアルバイトと大学の授業で外国語を学んでいました。

【3】親との関わりについて

酒井課長：親との関わりについて何でも結構です。

安藤さん：して欲しかった事は放っておいてもらうことです。嫌だったことは就活に関して話題にされたことです。

小島さん：嫌だったのは同じことを何回も聞かれたことです。嬉しかったのは試験の日に頑張れと言って送り出してくれたことです。して欲しかったことは特にありません。

長友さん：私の場合は親と就活の話をせず報告で終わりました。嬉しかったのは、寝坊しそうな時に叩き起こされ説明会に遅刻せずに行けたことです。

五 嶌 氏：親御さんとは時代背景の相違や仕事内容の多種多様化で業界のイメージに相違があります。ただサポートして欲しい時もあるので暖かい目で見守り、異変に気付いたらそっと聞いてみるという関係がベストだと思います。

【4】今後の就職活動へのアドバイス

酒井課長：就職活動中、心掛けていたことをお願いします。

安藤さん：説明会では 30 分前に会社に着いているようにしました。また、エントリーシートに書いたことをメモし面接時相違がないようにしていました。

長友さん：やるべきことはその日のうちに終わらせることを意識し、スケジュールを管理しました。面接では第一印象が大事なので大きな声で答えるよう気を付け、たとえ第二志望でもこの企業が第一志望だという気持ちで臨みました。

小島さん：私も説明会には早く行き、一番前あるいは説明する人の視界に確実に入る席に座りました。相手に体全体を向け、頷いてメモを取っていたのが印象に残っていると言われ、面接時に覚えていてもらえたので必要だと思います。

五 嶌 氏：企業が見ているポイントはアンケートの字が綺麗な、挨拶をしているか、待合室で喋っ

ていないか等学生さんが気を抜いているポイントを重視しています。私はいつも学生さんにメモを取りながら聞く、必ず質問を3つ用意してからすべての選考に臨むようにとアドバイスをしています。

【5】就職活動を振り返ってみて

酒井課長：就職活動を通して得たものは何かコメントいただけたらと思います。

長友さん：就活は答えがなく自分で動くしかないので、そこが得たものとなります。

安藤さん：忍耐力がついたことです。また、観察力・注意力もついたと思います。

小島さん：得たものは自分のことが分かったということです。

【6】就職活動の感想

酒井課長：アドバイスの事も含めて感想をお話いただければと思います

小島さん：就職活動をしていると他大学の人たちと交流することが出来、自分の視野も広がり、自分のレベルを比較することができます。

長友さん：日常生活から隙を作らず、些細なことでも自分の中でしっかりとルールを決めてそれを絶対を守るという事が大事だと思いました。

安藤さん：感想としましては、100人いれば100通りの就活があるのだなと思いました。

五 氏：企業は人を見極めるプロです。就活が楽しくなさそうだとすぐに見抜いてしまうので楽しいものと捉え臨んでいただきたいと思います。また、就活ノートを一冊作り、説明会でのメモとして使い、面接に行った際にも質問をリストアップするように指導しています。自分がたくさんの企業の選考をこなす中でどんどんスキルアップをしながら就活を進めていくことができます。

質疑応答

【質問】 大学生活時代に頑張っておけば良かったことがあったら教えていただけますか。

小島さん：私は圧倒的に授業です。部活動に主に力を注いでいたので、学業と自分で頑張ったと胸をはって言うことがあった方が良いと思います。

長友さん：英語とか勉強しておけばグローバル化に対応し幅が広くなると思います。何か一つ絶対自信があるもの、これをやってきたと言えることが重要と思います。

安藤さん：自分の人生を振り返って何に打ち込んで何を喜びとしたのか、何に挫折したのか等、自己分析をしておけば話に奥行きが出ると思いました。

【質問】 自分の体験や長所をこういった形で言葉にしていましたか。

安藤さん：アドリブの時こそ本音が出ますが、あまり考えすぎずにこの言葉で言った方が良いなと思ったことを言うようにしていました。

長友さん：相手を大人のおじさんという目を見て、ちゃんと自分の言葉が伝わるように、相手にわかりやすいようにということを意識して話していました。

小島さん：私はあまり考えず何も準備しなかった面接の方が話すことが出来ました。自分がやってきたことを信じて自信をもって言ったら良いと思います。